

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370700595		
法人名	株式会社いずみ		
事業所名	グループホーム菜の花 I 番館		
所在地	熊本県天草市本渡町本渡845番3		
自己評価作成日	令和2年1月10日	評価結果市町村報告日	令和2年3月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和2年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①「気を元気に」の理念を下に、屋外に出て季節を感じることで「生きている実感」を感じて頂き、脳の維持増進を図り、認知症の改善、緩和に繋がる支援と共に常に「尊厳をもった介護」を念頭におき実践しています。②熊本県基幹型地域拠点型認知症疾患医療センター事例検討会に参加し、他職種との連携を深めながら、認知症ケアの質の向上に努め、認知症ネットワーク構築の活動を行っています。③ご利用者様の健康管理として内科の往診、歯科の訪問治療を行っています。④地域の行事等に参加し、交流を通して、地域の方々との繋がりを大切にし、又、地域の福祉避難所として市と協定を締結しています。⑤ケアの質の向上を図る目的として、年間を通して、認知症介護、介護保険、虐待、緊急時の対応等の全体研修会、専門研修会、各ユニットでの勉強会を実施し取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

設立以来の理念「気を元気に」「五感に良い刺激を」「笑顔あふれる菜の花」が守り続けられている事業所でした。近年事業所周辺の開発が進み住宅街となりましたが、散歩道・東屋が設けられた敷地内では、変わらず日光浴や散歩、談笑を楽しむ入居者や家族の様子があがえましました。地域との相互交流も継続されており、地域での運動会で活躍する入居者の姿は恒例となっています。地域では防災の意識も高く、立地状況からも、一丸となって防災に取り組む様子も見られます。近年、職員不足による悩みも見られますが、従来からの法人の思いを大切にし、より充実したケアに臨む姿が職員面談でも見られました。今後も入居者それぞれの思いを大切にした上でのケアの充実、地域との交流が継続できることに期待します。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝礼時、毎月の会議等で理念の確認・共有をし、年間を通して、施設内研修を行っている。又、ユニット毎にチーム目標を設定し現場で理念の実践に取り組んでいる	「気を元気に」の理念は創立以来職員に伝えられており、理念共有のため機会ごとに施設長と、職員は、共に共有している事が職員の面談を通して実感できる体制になっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、又事業所での行事への案内を行いご参加頂いている。また地域の清掃活動に参加し、日々の実践として散歩コース等でのゴミ拾いを自主的に行っている	従来からの地域との付き合いは継続したものととなり、地域行事への参加や事業所行事への招待等相互交流が出来る。日常的な付き合いが大切であることを実践している。	地域の運動会では入居者が地域住民として活躍できている場面もうかがえました。日常的な交流の継続に期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で情報収集、発信を行い、又地域からの相談を受けたり、地域包括支援センターや民生委員の方と連携し対応している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見・要望は全体会議、職場会議で話し合い、サービス向上に繋がるように実践している	運営推進会議では事業所の活動報告の他、地域や入居者家族を交え多様な立場での意見交換が行われている。地域状況から、特に防災に関する意見交換が活発に行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括の職員に運営推進会議に出席して頂き、行政の現在の施策等の説明をして頂いたり、運営に関して助言等をして頂き指導を受けている	運営推進会議には地域包括からの参加があり報告や助言等がある。市役所への訪問も重ねており、入居者に関する報告・連絡等の他防災時のライフラインについての相談も行っている。天草市介護あんしん相談事業も受入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間5回施設全体の会議での勉強会及び外部研修に参加し、直接的・間接的拘束の防止に取り組み実践している。又、3ヶ月に1回、身体拘束廃止委員会を開催し、勉強会を行っている	職員のケアの統一に向けた勉強会の他、3ヶ月毎の身体拘束廃止委員会では具体的な事例を基にケアについて検討を行い、実践に繋げている。内容は運営推進会議等を利用し報告も行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議の中で安全衛生委員会から虐待に関することは常に呼びかけ年5回勉強会を計画的に行い、又積極的に外部研修の参加をおこなっている		

グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議の中での勉強会や外部研修に参加し、必要と思われる利用者に対しては、包括担当者へ相談するようにしている。運営推進会議の中でも包括職員の方に説明して頂いている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解除時には、十分な説明を行い、同意・納得が得られるようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議をはじめ、日頃より意見、要望を表せる雰囲気作りに努め、家族には毎月写真入りの手紙(トピックス)で状況を報告している。課題は、会議等で検討し対応している	隔月開催の運営推進会議には入居者・家族も参加しており、意見を表せる機会にもなっている。事業所では入居者それぞれのアルバム作成や毎月家族への手紙送付等、家族との関係作りにも努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りや各会議等で、意見・要望を聞き、検討し、対応している。また日頃より職員間で意見を言い合える関係作りに取り組んでいる	管理者もケアに携わっていることから、職員は日常的に意見を述べる機会がある。毎月の職員会議は基本的に全職員が参加しており、突発的事項が発生した際には当日に集まり意見を出し合い共有する体制がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望休はほぼ取り入れ、管理者が個人面談を行い、意見や要望を聞くようにしている。また努力、実績が認められる職員に対しては給与・ボーナス等で優遇している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の会議の中で自己研鑽の発表を実施し、外部研修は業務に支障がないように参加している。また、資格所得のための受験の後押しを行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域拠点型認知症疾患医療センター事例検討会に定期的に参加し、他職種との連係を深め、認知症介護の質の向上に取り組んでいる		

グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人、家族に面談し、状況把握を行い、居宅支援事業所のケアマネ、医療機関、施設の担当者から情報提供して頂いている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所されてホームになじまれるまでは、こまめに家族への連絡、情報提供を行い、家族の不安軽減に努めるとともに要望等もお聞きしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族に状況等の確認と担当ケアマネの意見等をお聞きし、要望や思いを察し対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまでの生活の中で培ってこられたことを大切にし、ささいなことでも教えて頂けるような雰囲気作りや環境作りをしている。編み物 野菜の育て方、買い物、料理等を一緒に実践している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の家族への便り(トピックス)、また面会時等で生活・身体状況を報告し、受診の付き添い協力もして頂いている。またホームや地域での行事にもお誘いし、自宅への一時帰宅や外泊もして頂いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの友人や親戚の方の面会があったり、なじみの店ででの買い物や散髪、興味をもたれている店等へ出かけている	家族との絆を大切にしており、通院を利用した家族との外出等も行われている。敷地内にはデイサービス、認知症デイ、有料と併設されているため、入居者・利用者同士の触れ合いや語らいも入居後の馴染みの関係となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃の心身の状況や気分の変化を把握し、居室に閉じこもらないように声かけを行い、ホールやテラス、園庭にお誘いし孤立しないように対応している		

グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方には担当者を中心にお見舞いに行き、本人や家族との交流を行っている。亡くなられた場合は、本人様のホームで作成したアルバムを贈与し、通夜、葬儀に出席し初盆参りも行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃より要望、意見等をお聞きし、意思疎通が困難な方にはご家族からの要望や情報収集を行い、表情・態度・行動から思いを察して検討し対応している	日常生活の中で、昼食時や入浴時等、入居者それぞれに対応する時間を利用し要望や意向を把握している。入居者個々に作成された「個人手引書」で個別ケアを行うことも、本人本位に検討したケアに繋がっている。	入居者の高齢化や状況により、全体的には以前より意欲が見られなくなったようですが、以前からの趣味である編み物やレース編みを続けられている様子が聞かれました。今後も思い思いの生活が継続する支援に期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族や担当ケアマネから情報収集の中で、小さな事でも見落とさないようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、精神状態や言動・表情・行動等及び何かサインを発していないか観察するようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の面会時等に意向をお聞きし、チームで話し合い、計画作成担当者が計画を作成している。毎月モニタリングを実施し、必要に応じて見直しを行っている。また状態に変化があった時には現状に即した計画を作成している	毎月の会議でモニタリングを行い、入居者の状況を共有している。隔月の運営推進会議や日頃の面会により把握した入居者・家族の意見を把握し、基本的に年1回の見直しを行っている。状況の変化が見られる際は随時計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の経過記録、各チェック表の記録、日勤、夜勤の申し送り事項、また受診後の結果、他の問題点等がある場合は申し送りノートに記録し、1日に2回申し送り時間を設け、全職員が情報を把握し介護計画に反映している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会時間帯の設定をしておらず、家族の希望があれば宿泊もして頂いている。また自宅への外出、外泊支援も行い、対応可能な要望は受け入れている。送迎、同行も行っている		

グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長・民生委員・老人会・婦人会・消防団の方々に運営推進会議にご参加頂いている。警察・消防・行政・消防団に利用者の写真入りの特徴を記した一覧表を提供し、緊急時の協力を依頼している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には入居前からのかかりつけ医での受診を継続している。看護師、職員が同行受診したり、往診の対応も行っている。受診後は家族に報告し、月に一度の手紙でも報告している。	入居前からのかかりつけ医の受診を支援しているが、往診による協力医を希望される家族も多い。希望により通院が必要な医療機関を選ばれる場合は家族による介助をお願いしているが、急変による場合は職員も対応する。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、情報や気づきはすぐ看護職員に報告し、連携をとっている。また看護職を常勤で配置し、健康管理を行い、緊急時、夜間等いつでも連絡及び指示がとれるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には家族と共に主治医から医療方針等の説明を聞き、医療機関には本人の状態、留意事項等を申し送っている。また早期に退院できるように介護、看護職員がお見舞いに行き、医療機関と情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、重度化や終末期の方針について説明し同意を得ている。重度化した場合には主治医、家族と連携し、ホームでの生活が可能な限り支援している	入居時に重度化・終末期の方針について同意を得ている。現状、身体状況の変化や医療が必要となった場合は他事業所や医療機関への変更を希望されるケースが殆どである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「緊急処置マニュアル」に沿って、全体会議、職場会議、施設内研修等で勉強会を行い実践している。		

グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回以上昼夜想定火災避難訓練を実施している。運営推進会議を通し地域の消防団、住民の方にもご参加頂き協力をお願いしている。玄関には避難誘導識別表を掲示し、各居室には色別のシールを貼ってスムーズな避難ができるように取り組んでいる。風水害・地震対策も計画書を作成し、避難訓練を年1回実施し、会議の場で周知を行っている	事業所玄関に掲示された居室の見取り図には色別シールが貼られており、自立・車椅子利用・手引き等、入居者の状況がひと目で分かることでスムーズな避難を可能にしている。運営推進会議では地域で防災に関する話合いが重ねられており、市で毎年防災の日で開催される一斉避難訓練にも参加している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議等で「守秘義務」「接遇」の勉強会を行い、日頃から尊厳を持った対応、声かけを行うように指導し実践している	毎月の全体会議は各部署の主任が講師となり勉強会を行っている。特に言葉遣いや日頃のケアや対応については会議で度々話題とされており、入居者の尊重とプライバシー確保を意識したケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の声を聴くという姿勢で、言動・表情・行動を読み取って、本人の意思を確認して実施している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望をお聞きし、心身状況に応じ対応している。一時帰宅を始め、趣味の園芸、書道、手芸、畑作業、買い物、ドライブ等を実施している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人、ご家族の希望をお聞きしながら、なじみの美容室や移動美容室を利用している。またその日に着る服はできるだけ本人に決めてもらい、化粧の習慣にある方は継続して頂くように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の嗜好、嚥下状態に合わせた食事形態で提供している。また利用者の能力に応じ、一緒に作ったり、後片付けを行っている。職員も同じ食事を一緒に摂り、時間を共有している	ユニットそれぞれで職員による手作りの食事が提供されている。職員も同じ食事を共に食することで入居者の日々の変化も感じることができる。出来る範囲ではあるが、入居者の関わりも大切にしている。	

グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を毎日チェックし記録している。食事量が少ない方には高カロリー食品、栄養剤摂取、水分摂取が少ない方には電解質飲料や好みのジュース等の代替品を提供し、無理なく摂取を促し支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人の能力に応じて職員が見守ったり介助している。義歯使用の方は週2回夜間消毒している。また訪問歯科医に定期的に健診及び治療して頂いている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の「排泄手引き書」を作成し、時間や仕草をみて声かけ誘導を行っている。昼間はできるだけ布パンツを使用し、トイレでの排泄を基本としている。	入居者それぞれの「手引書」をもとに時間や仕草で声を掛け誘導を行っている。昼間は出来るだけトイレでの排泄を支援しており、夜間は入居者それぞれに合わせた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人カルテにて排泄状況を確認し、できる範囲での運動・体操・歩行訓練等を実施し、食事には繊維質の多い料理を提供し、デザートには乳製品、果物を多く取り入れながら、スムーズな排泄ができるように取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	各利用者の「入浴手引き書」を作成し、入浴日には本人の意思確認を行い実施している。入浴拒否の方には時間をずらしたりタイミングを見て声かけをし、無理強いないようにし、清拭や陰部洗浄を実施し清潔保持に努めている。	入居者それぞれの「手引書」をもとに対応しており、週2～3回の入浴を基本としている。過度な手出しをすることなく、自分で出来ることを大切にケアを重視している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、閉じこもりや傾眠の予防を行っている。寝付きの良い方には一緒にホールで過ごしたり、その方の状態に合わせて午前、午後居室で臥床して頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者毎の服薬情報をファイルにまとめ、全職員が内容を把握できるようにしている。また「内服チェック表」で職員2人で声に出して確認し、確実に内服出来るように支援している。		

グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者自身が役割を感じられている畑作業、食事作り、後片付け、洗濯物たたみ等の支援を行うとともに、一人一人に合ったレクリエーションや散歩、買い物、ドライブ、一時帰宅等の活動を行い支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者毎の活動手引き書を作成し、天気が良いときは近隣を散歩したり、敷地内の東屋で外気浴を楽しんでいる。年間行事計画を通して季節毎の花見や地域の行事等にも参加し、ご家族や地域の方々にもご協力を頂いている	日常生活では天気の良い日には庭での散歩や外気浴、近隣への散歩等行っている。年間行事での外出や季節の花見、地域行事への参加等も計画されており、通院を利用したドライブや買い物等も日常的に行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数人は少額のお金を所持し、希望時には職員と一緒に買い物に出かけている。支払いは自分で出来るところまで見守り、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が携帯電話を持たれていたり、電話を希望される時は、居室に子機をお持ちし使用して頂いている。又、家族に手紙の返事を書かれたり、正月にはご家族や知人に年賀状を送る支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間と食堂には天窗や小窓から自然の光を多く取り入れ、玄関やホールには季節感のある花や利用者の作品を掲示し、四季を感じて頂けるようにしている。浴室やトイレにはマーク表示をして分かりやすいようにし、尿臭のないようにトイレ掃除の徹底をしている。	明るく掃除の行き届いた食堂の大きな窓からは明るい陽射しが注ぎ込む。リビングにはソファやいすが置かれ、入居者がくつろぐ場所が数か所設けられている。事業所全体で季節の花や日頃の入居者の写真が飾られており、日々の生活が思い起こされる。特にトイレ掃除には配慮されており、臭気を感じない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テラス、ホール、廊下の空間にソファ、椅子を設置し、一人になれたり、お仲間と過ごせるような空間を作り、又、観葉植物、絵、民芸品、利用者の作品等を置き共有空間を作り、居心地のよい落ち着いた場所作りを提供している。		

グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居後も本人、家族に馴染みのある家具や愛着のある物をお持ち頂き、本人が安心して居心地良く過ごせる空間作りの支援を行っている。	押入れ、ソファ、テレビ、テレビ台と、生活に十分な設備がなされている居室は入居者それぞれの生活用品が持ち込まれている。冷蔵庫の中も管理している入居者や部屋でレース編みを楽しむ姿もある等、思い思いの生活が営まれている。	居室の冷蔵庫には家族からの差し入れがあったり、また事業所の取引業者に個別に好みの物を注文する姿があったりと、思い思いの生活が送られている姿が見えました。入居者の思いを尊重するケアの継続に期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の能力に応じてホールの日めくり、日付記入をして頂いている。又、トイレ、風呂の表示をし、矢印で道順を示し、分かりやすくしている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370700595		
法人名	株式会社いずみ		
事業所名	グループホーム菜の花 II 番館		
所在地	熊本県天草市本渡町本渡845番3		
自己評価作成日	令和2年1月10日	評価結果市町村報告日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO 法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①「気を元気に」の理念を下に、屋外に出て季節を感じることで「生きている実感」を感じて頂き、脳の維持増進を図り、認知症の改善、緩和に繋がる支援と共に常に「尊厳をもった介護」を念頭におき実践しています。②熊本県基幹型地域拠点型認知症疾患医療センター事例検討会に参加し、他職種との連携を深めながら、認知症ケアの質の向上に努め、認知症ネットワーク構築の活動を行っています。③ご利用者の健康管理として内科の往診、歯科の訪問治療を行っています。④地域の行事等に参加し、交流を通して、地域の方々との繋がりを大切にし、又、地域の福祉避難所として市と協定を締結しています。⑤ケアの質の向上を図る目的として、年間を通して、認知症介護、介護保険、虐待、緊急時の対応等の全体研修会、専門研修会、各ユニットでの勉強会を実施し取り組んでいます。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝礼時、毎月の会議等で理念の確認・共有をし、年間を通して、施設内研修を行っている。又、ユニット毎にチーム目標を設定し現場で理念の実践に取り組んでいる		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、又事業所での行事への案内を行いご参加頂いている。また地域の清掃活動に参加し、日々の実践として散歩コース等でのゴミ拾いを自主的に行っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で情報収集、発信を行い、又地域からの相談を受けたり、地域包括支援センターや民生委員の方と連携し対応している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見・要望は全体会議、職場会議で話し合い、サービス向上に繋がるように実践している		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括の職員に運営推進会議に出席して頂き、行政の現在の施策等の説明をして頂いたり、運営に関して助言等をして頂き指導を受けている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間5回施設全体の会議での勉強会及び外部研修に参加し、直接的・間接的拘束の防止に取り組み実践している。又、3ヶ月に1回、身体拘束廃止委員会を開催し、勉強会を行っている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議の中で安全衛生委員会から虐待に関することは常に呼びかけ年5回勉強会を計画的に行い、又積極的に外部研修の参加をおこなっている		

グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議の中での勉強会や外部研修に参加し、必要と思われる利用者に対しては、包括担当者へ相談するようにしている。運営推進会議の中でも包括職員の方に説明して頂いている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解除時には、十分な説明を行い、同意・納得が得られるようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議をはじめ、日頃より意見、要望を表せる雰囲気作りに努め、家族には毎月写真入りの手紙(トピックス)で状況を報告している。課題は、会議等で検討し対応している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りや各会議等で、意見・要望を聞き、検討し、対応している また日頃より職員間で意見を言い合える関係作りに取り組んでいる		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望休はほぼ取り入れ、管理者が個人面談を行い、意見や要望を聞くようにしている。また努力、実績が認められる職員に対しては給与・ボーナス等で優遇している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の会議の中で自己研鑽の発表を実施し、外部研修は業務に支障がないように参加している。また、資格所得のための受験の後押しを行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域拠点型認知症疾患医療センター事例検討会に定期的に参加し、他職種との関係を深め、認知症介護の質の向上に取り組んでいる		

グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人、家族に面談し、状況把握を行い、居宅支援事業所のケアマネ、医療機関、施設の担当者から情報提供して頂いている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所されてホームになじまれるまでは、こまめに家族への連絡、情報提供を行い、家族の不安軽減に努めるとともに要望等もお聞きしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族に状況等の確認と担当ケアマネの意見等をお聞きし、要望や思いを察し対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまでの生活の中で培ってこられたことを大切にし、ささいなことでも教えて頂けるような雰囲気作りや環境作りをしている。編み物 野菜の育て方、買い物、料理等を一緒に実践している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の家族への便り(トピックス)、また面会時等で生活・身体状況を報告し、受診の付き添い協力もして頂いている。またホームや地域での行事にもお誘いし、自宅への一時帰宅や外泊もして頂いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの友人や親戚の方の面会があったり、なじみの店での買い物や散髪、興味をもたれている店等へ出かけている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃の心身の状況や気分の変化を把握し、居室に閉じこもらないように声かけを行い、ホールやテラス、園庭にお誘いし孤立しないように対応している		

グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方には担当者を中心にお見舞いに行き、本人や家族との交流を行っている。亡くなられた場合は、本人様のホームで作成したアルバムを贈与し、通夜、葬儀に出席し初盆参りも行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃より要望、意見等をお聞きし、意思疎通が困難な方にはご家族からの要望や情報収集を行い、表情・態度・行動から思いを察して検討し対応している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族や担当ケアマネから情報収集の中で、小さな事でも見落とさないようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、精神状態や言動・表情・行動等及び何かサインを発していないか観察するようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の面会時等に意向をお聞きし、チームで話し合い、計画作成担当者が計画を作成している。毎月モニタリングを実施し、必要に応じて見直しを行っている。また状態に変化があった時には現状に即した計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の経過記録、各チェック表の記録、日勤、夜勤の申し送り事項、また受診後の結果、他の問題点等がある場合は申し送りノートに記録し、1日に2回申し送り時間を設け、全職員が情報を把握し介護計画に反映している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会時間帯の設定をしておらず、家族の希望があれば宿泊もして頂いている。また自宅への外出、外泊支援も行い、対応可能な要望は受け入れている。送迎、同行も行っている		

グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長・民生委員・老人会・婦人会・消防団の方々に運営推進会議にご参加頂いている。警察・消防・行政・消防団に利用者の写真入りの特徴を記した一覧表を提供し、緊急時の協力を依頼している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には入居前からのかかりつけ医での受診を継続している。看護師、職員が同行受診したり、往診の対応も行っている。受診後は家族に報告し、月に一度の手紙でも報告している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、情報や気づきはすぐ看護職員に報告し、連携をとっている。また看護職を常勤で配置し、健康管理を行い、緊急時、夜間等いつでも連絡及び指示がとれるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には家族と共に主治医から医療方針等の説明を聞き、医療機関には本人の状態、留意事項等を申し送っている。また早期に退院できるように介護、看護職員がお見舞いに行き、医療機関と情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、重度化や終末期の方針について説明し同意を得ている。重度化した場合には主治医、家族と連携し、ホームでの生活が可能な限り支援している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「緊急処置マニュアル」に沿って、全体会議、職場会議、施設内研修等で勉強会を行い実践している。		

グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回以上昼夜想定火災避難訓練を実施している。運営推進会議を通し地域の消防団、住民の方にもご参加頂き協力をお願いしている。玄関には避難誘導識別表を掲示し、各居室には色別のシールを貼ってスムーズな避難ができるように取り組んでいる。風水害・地震対策も計画書を作成し、避難訓練を年1回実施し、会議の場で周知を行っている		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議等で「守秘義務」「接遇」の勉強会を行い、日頃から尊厳を持った対応、声かけを行うように指導し実践している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の声を聴くという姿勢で、言動・表情・行動を読み取って、本人の意思を確認して実施している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望をお聞きし、心身状況に応じ対応している。一時帰宅を始め、趣味の園芸、書道、手芸、畑作業、買い物、ドライブ等を実施している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人、ご家族の希望をお聞きしながら、なじみの美容室や移動美容室を利用している。またその日に着る服はできるだけ本人に決めてもらい、化粧の習慣にある方は継続して頂くように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の嗜好、嚥下状態に合わせた食事形態で提供している。また利用者の能力に応じ、一緒に作ったり、後片付けを行っている。職員も同じ食事を一緒に摂り、時間を共有している		

グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を毎日チェックし記録している。食事量が少ない方には高カロリー食品、栄養剤摂取、水分摂取が少ない方には電解質飲料や好みのジュース等の代替品を提供し、無理なく摂取を促し支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人の能力に応じて職員が見守ったり介助している。義歯使用の方は週2回夜間消毒している。また訪問歯科医に定期的に健診及び治療して頂いている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の「排泄手引き書」を作成し、時間や仕草をみて声かけ誘導を行っている。昼間はできるだけ布パンツを使用し、トイレでの排泄を基本としている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人カルテにて排泄状況を確認し、できる範囲での運動・体操・歩行訓練等を実施し、食事には繊維質の多い料理を提供し、デザートには乳製品、果物を多く取り入れながら、スムーズな排泄ができるように取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	各利用者の「入浴手引き書」を作成し、入浴日には本人の意思確認を行い実施している。入浴拒否の方には時間をずらしたりタイミングを見て声かけをし、無理強いしないようにし、清拭や陰部洗浄を実施し清潔保持に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、閉じこもりや傾眠の予防を行っている。寝付きの良い方には一緒にホールで過ごしたり、その方の状態に合わせて午前、午後居室で臥床して頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者毎の服薬情報をファイルにまとめ、全職員が内容を把握できるようにしている。また「内服チェック表」で職員2人で声に出して確認し、確実に内服出来るように支援している。		

グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者自身が役割を感じられている畑作業、食事作り、後片付け、洗濯物たたみ等の支援を行うとともに、一人一人に合ったレクリエーションや散歩、買い物、ドライブ、一時帰宅等の活動を行い支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者毎の活動手引き書を作成し、天気の良いときは近隣を散歩したり、敷地内の東屋で外気浴を楽しんでいる。年間行事計画を通して季節毎の花見や地域の行事等にも参加し、ご家族や地域の方々にもご協力を頂いている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数人は少額のお金を所持し、希望時には職員と一緒に買い物に出かけている。支払いは自分で出来るところまで見守り、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が携帯電話を持たれていたり、電話を希望される時は、居室に子機をお持ちし使用して頂いている。又、家族に手紙の返事を書かれたり、正月にはご家族や知人に年賀状を送る支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間と食堂には天窓や小窓から自然の光を多く取り入れ、玄関やホールには季節感のある花や利用者の作品を掲示し、四季を感じて頂けるようにしている。浴室やトイレにはマーク表示をして分かりやすいようにし、尿臭のないようにトイレ掃除の徹底をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テラス、ホール、廊下の空間にソファ、椅子を設置し、一人になれたり、お仲間と過ごせるような空間を作り、又、観葉植物、絵、民芸品、利用者の作品等を置き共有空間を作り、居心地のよい落ち着いた場所作りを提供している。		

グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居後も本人、家族に馴染みのある家具や愛着のある物をお持ち頂き、本人が安心して居心地良く過ごせる空間作りの支援を行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の能力に応じてホールの日めくり、日付記入をして頂いている。又、トイレ、風呂の表示をし、矢印で道順を示し、分かりやすくしている		

2 目 標 達 成 計 画

事業所グループホーム菜の花

2 年 3 月 5 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	入所者の高齢化や職場の状況により、一人一人の思いに十分な対応が出来ていないことがある	入所者お一人お一人に寄り添い、表情、態度から思いを察して対応できるようにし、家族からのご要望もお聞きするようになる	それぞれの担当者が1日の中で必ず1対1で過ごす時間を作り、思いに寄り添う支援を継続する	6ヶ月
2	2	地域との日常的な交流が少し足りないと感じることがある	職員1人1人が地域の一人としての意識を常に持つように努める	<ul style="list-style-type: none"> ・出勤時、散歩時は必ず笑顔での挨拶を継続する ・ホームでの行事に地域の方々により多く参加して頂ける案内を継続する 	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。